

MIC-AP NEWSLETTER

Newsletter of MIC-AP

平成 28 年度版(平成 29 年 3 月発行)

CONTENTS

- 今年度事業の概要 ● アクティブ・ラーニング シンポジウム
- ワーキンググループ活動ハイライト: クリティカル・シンキングテストの開発

平成 28 年度事業の概要

平成 26 年度に文部科学省・大学教育再生加速プログラム (AP) テーマ I・II に採択された本学の AP 事業は、3 年目を終えました。今年度の 4 月から国際教養学部においてルーブリック・ベース・シラバスの本格的運用が開始され、教員の活用状況及びルーブリック活用における問題点・改善点を把握するためにアンケート調査が行われました。5 月からは本学独自のクリティカル・シンキング・アセスメントテスト (MICCAT) の開発が行われ、10 月にはその初版の有効性・改善点を把握するために、国際教養学部の学生に対してテストが実施されました。アクティブ・ラーニングに関しては、学内で FD を 2 回行ったほか、東京でシンポジウムを開催し、成果発表を行うとともに、ワークショップも開催しました。e ポートフォリオの運用は、昨年度に引き続き、学生へのオリエンテーションを多数行うことで、その活用法を学生に周知することができました。今年度の各ワーキンググループの活動は、来年度以降の本事業の更なる飛躍につながる充実したものとなりました。

本学の AP 事業の目標

テーマ I : アクティブ・ラーニング (AL)

1. 実践している AL を体系化し、その成果を検証して、効果的な AL の手法を提示する。
2. 英語スキルを向上させる AL プログラムの構築

テーマ II : 学修成果の可視化

1. クリティカル・シンキング (CT) を測定するツールの開発
2. ルーブリック・ベース・シラバスの導入による学修の PDCA の確立
3. e-ポートフォリオを用いた学修成果の可視化

2016 アクティブ・ラーニング シンポジウムの開催

平成 28 年 11 月 12 日 (土) に「2016 アクティブ・ラーニング シンポジウム」を東京・お台場の国際交流館で開催しました。はじめにピーターズ副学長が開会の挨拶をし、その後本学の AP 事業の概要を説明しました。それに引き続き、アクティブ・ラーニングワーキンググループ (WG) に所属するアン・ハワード准教授とカタリーナ・モーク講師が、「本学におけるアクティブ・ラーニング (AL) の可視化」と題した講演を行い、AL の概念的分類、及びその分類に言及しつつ、本学で使われている AL の具体的な手法について発表しました。また、学生の AL における学習行動についてのアンケート結果の発表も行いました。



What is the e-Portfolio? e-ポートフォリオとは? Orientation for faculty and students
教員と学生へのオリエンテーション



e-ポートフォリオについては、パッソス准教授が、本学での e-ポートフォリオ導入から使用までの過程を発表しました。また、国際教養学部生の年度末ページ、留学ポートフォリオ、本学の授業で使われている e-ポートフォリオの具体例も紹介しました。ルーブリック・ベース・シラバスについては、ウォーカー学部長補佐が、平成 28 年度 4 月よりシラバスに導入した全学的ルーブリックに関する教員への調査、ならびに本学教員が使用したルーブリックの具体例を発表しました。



最後は、クリスマス教授が「アクティブ・ラーニングワークショップ」を行い、授業をより学習者の学び重視にするための具体的な教授法を参加者体験型のワークショップで紹介しました。関東のみならず、北海道や福岡など遠方からの参加者の方々もいました。質疑応答セッションでは、参加者から様々な質問・意見が飛び交い、今後の本学 AP 事業発展の参考となる意見も多く聴かれたことから、有意義なシンポジウムとなりました。



No. of instructors reporting use of ALTs from each quadrant

EXTEMPORANEOUS 即興型

クリティカル・シンキング WG は、ジョンソン講師が現在開発中の本学独自のクリティカル・シンキングテストに関して、これまでのテスト開発への取組と 10 月に行ったパイロットテストの結果を発表しました。

本学独自のクリティカル・シンキングテスト(MICCAT)の開発

本学の国際教養学部では、開学当初から授業を英語で行い、アクティブ・ラーニングを通して学生の考える力（クリティカル・シンキング）を育成するという独自の教育法を行ってきました。しかし、効果的なアクティブ・ラーニングが学生のクリティカル・シンキングを育成するといっても、その伸長度が測れなければ、本当にその能力が育成されているのかを把握することはできません。そこで、具体的にクリティカル・シンキング能力を可視化するために、本学独自のクリティカル・シンキングテストを開発しています。

MICCAT 初版の作成

昨年度に米国テネシー工科大学が開発した CAT を実施したことで得た経験及び知見に基づき、本学独自のクリティカル・シンキング能力を測定するテスト（MICCAT）の開発が行われました。本学が重要と考えるクリティカル・シンキング能力を明確化し、その能力を測るための質問が盛り込まれた MICCAT の初版が作成されました。

テスト実施の様子



試験の実施

MICCAT 初版の有効性の検証と必要な改善点を把握するために、国際教養学部 1、3、4 年生に対してテスト（英語）が実施されました。MICCAT 初版は全 26 問から構成され、クリティカル・シンキング能力に欠かせない演繹的及び帰納的思考法、様々な視点から考える力、適切な情報を把握する能力などを測定するようデザインされています。英語で作成されたテストであるため、受験者の英語力の影響を慎重に分析・検討しつつ、より多くのデータを収集・分析し、改訂を重ね、一步一步信頼度の高い宮崎国際大学クリティカル・シンキングテスト（MICCAT）を作っていきます。

MICCAT が測定する能力の構成

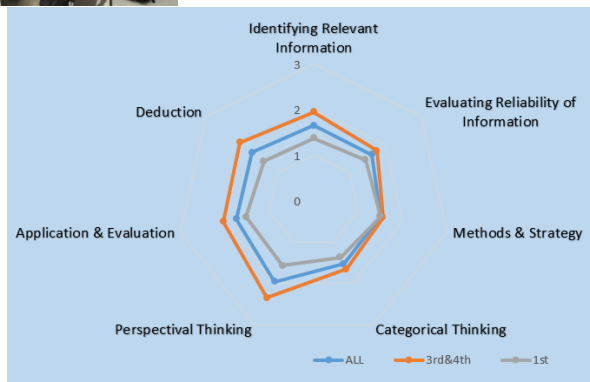
上位能力

Deductive Logical Inference
Inductive Logical Inference

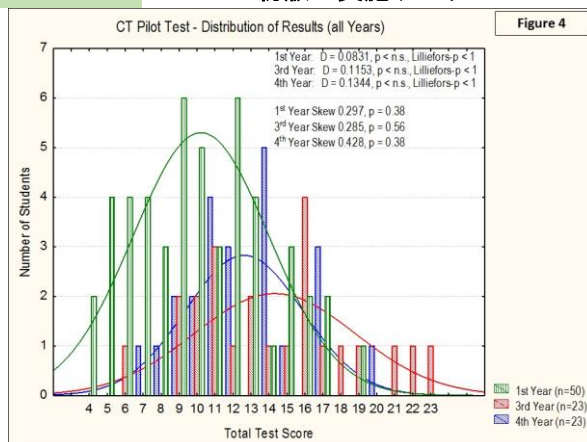
具体的な下位能力

Identifying Relevant Information
Evaluating Reliability of Information
Methods & Strategy
Categorical Thinking
Perspectival Thinking
Application & Evaluation
Deduction

学年別・CT 能力の達成度



MICCAT 初版の実施データ



平成 28 年度の主な活動

- 4 月 ルーブリック・ベース・シラバスの本格的運用開始
- 5 月～ MICCAT の開発
- 6 月 新入生にタブレット端末を貸与
- 第 1 回アクティブ・ラーニング FD 実施
- 7 月 各ワーキンググループからのアンケート調査の実施
- 10 月 MICCAT の開発の継続および試験的運用
- 11 月 2016 アクティブラーニング・シンポジウム開催
- 第 2 回アクティブ・ラーニング FD 実施
- 12 月 MICCAT の開発と成果に関する FD 実施
- 1 月 学年末ページ・e ポートフォリオ（学生作成）のオリエンテーション実施
- 1 月～ 各ワーキンググループの活動成果分析
- 3 月 平成 28 年度外部評価委員会開催

平成 29 年度の主な活動予定

- 4 月～ ワーキンググループ連携の目標及び指針の策定
- MICCAT 第 2 版の実施及び結果の分析
- 5 月 学生向け e ポートフォリオ オリエンテーション実施
- ルーブリックの活用法に関する FD 実施
- アクティブ・ラーニング FD 実施
- 6 月～ ルーブリックの改訂
- 10 月 MICCAT 第 3 版の実施及び結果の分析
- 11 月 ルーブリックの e-ポートフォリオ導入に関する FD の実施
- 12 月 2017 アクティブ・ラーニング・シンポジウム開催
- 1 月～ MICCAT 第 3 版の実施結果に関する FD 実施
- 1 月～ 各ワーキンググループの活動成果分析
- 3 月 平成 29 年度外部評価委員会開催